

—みんなで家庭教育を支える—

おや がく

あおもり親楽プログラム

支援者編

3



青森県教育委員会

あおもり親楽プログラムの作成にあたって

次代を担う子どもが健やかに成長することは、親の願いであり、社会全体の願いでもあります。

しかし、現代社会では、都市化や少子化が進み、核家族化や地縁的なつながりの希薄化により家庭教育を支える環境は大きく変化しています。家庭においては、祖父母など身近な人から家庭教育を学ぶ機会が減少し、地域においては、地域の大人が子育てに関わる機会が少なくなっています。こうした世代を超えた支援や地域の支援の弱まりは、親が自信を持って家庭教育を行うことを難しくしており、このことは、家庭の孤立化や子育てに不安感や負担感をもつ親の増加にも現れています。

このような中で、充実した家庭教育が行われていくためには、個々の家庭だけではなく、行政や学校、支援団体、企業、地域住民など子育てに関わる様々な主体が協力し、一人一人の親が子どものよさや個性に気づき、子どもの発達段階に応じた適切な関わりができるように「親の学びと育ち」を社会全体で支えていくことが求められています。

そこで、県教育委員会では、平成24年度から、親同士の話し合いを通じて主体的に学び合う学習プログラムとして「あおもり親楽プログラム」を作成し、乳幼児・小学生編（平成24年度）と中・高校生編（平成25年度）を発行しました。

今年度は、地域において、家庭教育を支援する方々を対象として「あおもり親楽プログラム（3 支援者編）」を作成しました。

本冊子を家庭教育支援団体の研修や祖父母対象の講座等、様々な機会に御活用いただき、「あおもり親楽プログラム」の普及に御協力いただきたいと思います。そして、子どもの健やかな成長につながることを期待します。

結びに、本冊子の作成に御尽力をいただいた青森県家庭教育支援推進協議会委員の皆様にご心より感謝申し上げます。

平成27年3月

青森県教育庁

生涯学習課長 中野 聖子

も く じ

あおもり親楽プログラムの作成にあたって	1
1 あおもり親楽プログラムについて	3
(1) あおもり親楽プログラムとは	
(2) あおもり親楽プログラム（3 支援者編）の構成と内容	
2 家庭教育を取り巻く現状と課題	5
(1) 家庭（親）の今	
<参考>合計特殊出生率とは	
(2) 子どもたちの今	
(3) これまでの青森県の取組	
3 家庭教育支援者に求められるもの	17
(1) 家庭教育支援者として心得ておきたいこと	
(2) 支援にあたって気をつけたいこと	
4 家庭教育支援団体の役割	23
(1) 親や地域とのつながりをつくる	
(2) チームワークを高める	
(3) 学習の場をつくる	
5 家族としてできること	33
(1) 家族だから関わり過ぎてしまうこと	
(2) 祖父母・家族に求められる親への支援	
6 あおもり親楽プログラム	
(1) あおもり親楽プログラムの活用方法	37
(2) プログラム	41
I 支援者を対象としたプログラム	
I-1 誰のための講座だろう？ ～参加者が主体的に話し合うためには～	
I-2 聴くことの大切さ ～相手の心に寄り添って～	
I-3 地域でつながるために ～きっかけを大切に～	
II 祖父母・家族を対象としたプログラム	
II-1 子育ての主役は誰？ ～祖父母・家族の役割を考える～	
II-2 親の親だからこそ① ～祖父母だからできること～	
II-3 親の親だからこそ② ～祖父母だからできること～	
(3) 手引き（展開例）	49
プログラムシート	56
アンケート	57